

## 東釧路貝塚

二枚貝やカキの貝殻および土器片が捨てられた塚が、釧路川沿いで見つかり、先史時代の人間の活動の証拠を提供してくれます。釧路には、約 7,000 年前、最終氷期が終わり、北海道がユーラシア大陸から分かれた後に、人間が定住したと考えられています。

東釧路貝塚は、11 の塚やごみ山から構成されています。それぞれ、深さは最大 80cm で、釧路湿原から約 15m 高い台地上に U 字形に並んでいます。この貝塚は、面積 120m×90m の集落遺跡にあり、約 6,000 年前の時代に遡るものです。この時期に、人々は定住型の生活をここで営みはじめました。当時、釧路湿原は海の一部でした。この遺跡は海岸線にあったのでしょう。

この地域の人々は、恒常的な集落を確立し、年間を通して、狩猟・漁労・採集を組み合わせ生きていました。この貝塚近くの高台では、縄文時代（紀元前 13,000 年～紀元前 500 年）から擦文時代（西暦 600～1200 年）までの様々な様式の土器片が発見されています。土器は、縄文時代を通して大きく発展しました。ここで見られる様々な土器の様式は、この地域に数千年間人が定住していたことを示しています。

考古学者たちは、貝殻と土器の間に、放射状に並べられたイルカの頭蓋骨を発見しました。また、赤い酸化鉄を振りかけた飼い犬とトドの遺体も見つけました。これらの発見は、この場所で儀式が行われた可能性を示唆しています。

また、東釧路貝塚では、いくつかの穴から人間の全身の骨も発掘されました。これらの骨は、かがんだ姿勢で円形の穴に葬られており、縄文時代中期の埋葬慣行と一致しています。この博物館では、貝殻を含む実際の貝塚の断面図とともに、縄文時代の墓穴のレプリカと土器片を展示しています。